

## 肉用牛経営向上技術発表会の開催

- テーマ：「肉用牛の生産を守り発展させるために」 -

11月24日、碓高原牧場では、口蹄疫の発生に伴い延期していた肉用牛経営向上技術発表会を開催しました。「新しい和牛子牛育成マニュアル」や「サポートカウのすすめ」などのテーマで、農家経営に直結した新しい取組みの紹介や府家畜商業協同組合連合会の平井会長による「京都産和牛子牛に求めるもの」と題した講演など盛り沢山の内容で、参加した肉用牛農家や関係者ら約60名と活発な意見交換ができました。



発表に対する活発な質疑



平井氏の講演を熱心に聞く参加者

畜産センター  
碓高原牧場

## 高病原性鳥インフルエンザ発生に伴う鶏舎消毒

- 徹底した防疫対策を実施中 -

11月30日、当センターでは、島根県における高病原性鳥インフルエンザ疑似患者確認の一報を受け、鶏舎、周辺施設での消石灰による緊急消毒を行いました。

併せて、「鶏の健康観察の強化」や「野生動物の侵入防止」、「関係者以外の立入・通行制限」、「鶏の飲水消毒」、「人・車両の消毒」など鳥インフルエンザウイルスの侵入防止対策を再点検し、徹底した防疫対応を行っています。



職員による鶏舎周囲の石灰散布



施設進入路にも石灰を散布

## 畜産から「MOTTAINAI」を発信！

11月14日、府民に最新の研究成果をわかりやすく紹介する府民講座「京都発！食とみどりのサイエンスNow」がキャンパスプラザ京都で開催されました。

当センターからは、「もったいない！牛が活躍、食品資源をムダなく使っておいしい牛乳を」と題して講演を行いました。乳牛の飼料に利用できる食品資源が沢山あることや食品製造工場や家庭から出る「食品のムダ」についても紹介したところ、多くの質問が寄せられ、関心の高さが伺えました。



約100名の参加者との意見交換

## 技術実証に向けて着々と

- 新しい鶏卵洗浄システムの試作装置が完成 -

当センターでは、石灰系化合物を殺菌剤として用い、排水を浄化する機能を備えた「新しい鶏卵洗浄システム」を京都市内の全自動鶏卵選別包装システムのトップメーカーと共同で開発しています。

今回、これまでの研究成果を基にメーカーが試作した洗卵消毒装置と排水浄化装置を当センターに設置しました。今後は、この装置で実証試験を行います。



洗卵消毒装置(左)と排水浄化装置(右)

## 秋は乳牛とのふれあい・体験学習のピーク

- 今年も多くの子供たちが訪れました -

秋は、多くの幼稚園児や小・中学校生が、校外学習等で当センターを訪れます。今年の9月から11月には、昨年同期の5倍以上の11団体、392名が訪れました。子供たちは、乳牛に触ったり、乳しぼりや子牛にミルクを与えるなど、乳牛とのふれあいを楽しみました。



搾乳体験した牛をモデルに写生

9～11月 畜産センターへの来所児童生徒

年度	幼稚園等	小学校	中学校	計	
22	件数	8	2	1	11
	人数	233	151	8	392
21	件数	3	1	1	5
	人数	51	11	10	72



乳牛の全身を触りました

## 鹿児島県から改良基礎雌牛を導入

11月1日、優秀な和牛を増産するための改良基礎雌牛8頭が、鹿児島県から当センターにやって来ました。これらの雌牛の血統はいずれも国内トップクラスで、今後、優秀な雄を交配した受精卵を採取し、府内の農家に供給します。

また、24日に開催した肉用牛経営向上技術発表会に来場した和牛農家からは、導入牛に期待する声が多く上がりました。



導入牛の見学会

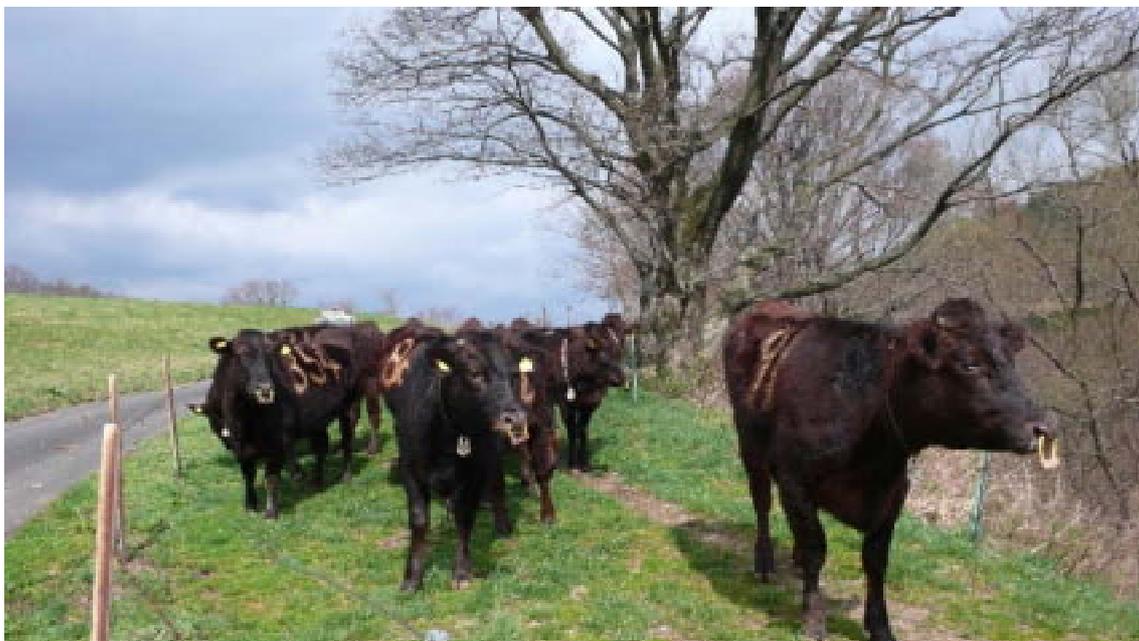
畜産センター  
碓高原牧場

## 碓高原牧場の放牧が終了

- 235日間、延べ約8,000頭を放牧しました -

11月18日、当牧場では、放牧していた和牛21頭を牛舎に収容し、今年の放牧がすべて終了しました。猛暑の影響で牧草の生育不足が生じ、牛が食べる牧草がほとんど無くなったため、昨年より9日早い収牧となりました。

飼育する175頭の牛たちは、雪に閉ざされる冬の間、牛舎で過ごし、若葉が芽吹く春を待ちます。



冬期の積雪に備えて牛舎に急ぐ牛たち

## レンタカウの放牧が終了

11月16日、舞鶴市で放牧していたレンタカウ2頭を収牧し、今年のレンタカウの放牧は全て終了しました。舞鶴市、福知山市、京丹後市の3か所で、耕作放棄地対策や獣害対策、地域の活性化のために活躍したレンタカウは、その役目を終え当场に帰ってきました。来年も引き続き地域の要望に応えていきます。



地域の皆さんに慣れ親しんだレンタカウ（舞鶴市）